

## 入管法改悪反対 各地で抗議の集会・デモ

# 難民申請中の外国人を強制送還にする改悪

### 野党が対案提出

#### 5月7日雨の中集会・デモに3500人

5月7日、東京の高円寺中央公園で入管法改悪に反対する集会・デモが取り組まれ、約3500人(主催者発表)が声をあげた。

YouTube 動画リンク [入管法改悪反対 5.7 杉並・高円寺デモ CITV-NEWS - YouTube](#)

法案は9日に衆院を通過し、審議の場は参院に移ったが、国会周辺や全国各地で廃案を求める集会やデモが連日、続いている。

#### 日本に逃げてきた当事者の声を聞こう

5月8日には、東京練馬区の Coconer i ホール(区立区民・産業プラザ)で、集会「どうなるの？入管法 当事者が語る難民政策と人々のいのち」が開催されている。

集会第1部では根本敬上智大学名誉教授から、「ミャンマーにおけるロヒンギャ問題の歴史的背景とクーデター後の状況」について講演を受け、ロヒンギャと呼ばれる人々が歴史的にどのような経過で差別・迫害を受けて今日に至っているか解説を受けた。

講演に続いて、2022年7月30日、ヤンゴンにおけるミャンマークーデター抗議デモを取材・撮影中に、治安当局によって拘束された久保田徹氏が、2016年に作成したドキュメンタリー「Light up Rohingya」を上映。久保田氏はロヒンギャの人々が隔離キャンプに隔離収容され無権利状態にあることを説明し、自身が治安当局に拘束された経験の恐怖を語り、自分が日本人ではなく、ミャマー人であったら、さらにすさまじい拷問等を受け解放はなかったと振り返った。

久保田氏の後、ミャンマーでロヒンギャとして迫害を受けて日本に亡命してきたミョーチャーチャー氏が、ミャンマー国内でロヒンギャが国民

としての権利が認められず、ロヒンギャを攻撃対象とする暴動の犠牲となっている実態を説明。

ミャンマー国民の中にもイスラム教徒のロヒンギャへの差別、排除の意識が強い中で、国際社会からはロヒンギャ差別迫害への批判が強まっている。

#### 改悪されたら強制送還必至

ミョーチャーチャー氏は自らへの差別迫害経験から、民主化を進めることによってロヒンギャの権利確立することを目指し、アウンサンスーチー氏のNLDの運動に高校生の時から参加し治安当局に投獄された。その後日本へ逃亡してきたが、入管法が改悪されると、ミャンマーへ強制送還されることが必至の状況にあると訴えた。

集会第2部では「反貧困ネットワーク」の瀬戸大作氏、「仮放免者等の在留資格を求める日本人配偶者の会」のなおり氏、ミョーチャーチャー氏、入管収容者への面会活動を行っている「入管収容問題を考えるソーシャルワーカーネットワーク」の杉山聖子氏が入管法が改悪されると強制送還に直面する人々の状況を訴えた。

YouTube 動画リンク [集会「どうなるの？入管法 当事者が語る難民政策と人々のいのち」 - YouTube](#)

#### 野党が対案を提出

立憲民主党、共産党、日本共産党、立憲民主党、社民党、参院会派「沖縄の風」、れいわ新選組の野党各党・会派は10日、難民等保護法案と入管法改正案を参院に共同提出した。

赤旗記事リンク [難民・入管行政改善を/5野党・会派が法案共同提出 \(jcp.or.jp\)](#)